

研究・調査報告書

報告書番号	担当
402	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Risk factors for serum alanine aminotransferase elevation: A cross-sectional study of healthy adult males in Tokyo, Japan. 血清アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT) 上昇の危険因子：東京の健常成人男性における横断研究	
執筆者	
Gunji T, Matsushashi N, Sato H, Iijima K, Fujibayashi K, Okumura M, Sasabe N, Urabe A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Dig Liver Dis. 2010 Dec;42(12):882-7.	
キーワード	
アラニンアミノトランスフェラーゼ、アルコール、脂肪肝、インスリン抵抗性、ステロイド	
要 旨	
目的： 軽度から適度の飲酒の肝保護作用が示唆されてきた。自覚症状のない対象者における ALT 上昇の予測因子を、超音波上での脂肪肝の有無をある人となない人で検討する。	
方法： 9,703 人の健常男性での横断研究である。HBV, HCV 感染者、薬剤性肝障害、アルコール濫用、慢性腎不全、慢性肝不全、代謝性疾患治療者を除外した。脂肪肝の有無は腹部超音波検査で評価し、腹部内臓脂肪(VAT)は CT で評価した。	
結果： 7,148 人の男性 (平均年齢 50.3±7.8 歳) で検討した。そのうち 2,406 人 (33.7%) が超音波検査にて脂肪肝とされた。ALT は、脂肪肝無し群のうちの 163 人 (3.4%)、脂肪肝有り群のうちの 554 人 (23.0%) で上昇していた。脂肪肝無し群においては、軽度飲酒 (40-140g/週) で独立して有意に ALT 上昇リスクが低かった (オッズ比 0.568, 95%CI 0.342-0.943)。脂肪肝無し群では、ALT 上昇は、年齢、VAT、HDL コレステロール、中性脂肪と有意に関連した。	
結論： 日本人男性では軽度飲酒は ALT 上昇と関連しなかった。メタボリック症候群の因子は、脂肪肝の有無に関わらず、ALT 上昇と有意に関連した。	